

平成29年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成30年5月

松江市（島根県）

○計画期間：平成25年4月～平成31年3月（6年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点（平成30年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成20年7月に国から「松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、その後、平成25年3月に「2期松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受けた。

2期計画においては、“まちなかを楽しむ「観光・交流」”、“まちなかが賑わう「近隣集客拠点」”、“住みたい・住み続けたい「まちなか居住」”の3つの基本方針のもと、官民が連携して事業を展開し、中心市街地活性化に取り組んでいる。

平成29年度は中心市街地の賑わい創出の一環として、中心市街地活性化協議会のソフト事業で、宿泊施設や観光案内所等に飲食店マップを作成、配布した。マップを作成することによりエリアに客を呼び込み掲載店の売り上げアップに繋がるとともに、客にとっても店を新規開拓することができ、賑わいと商業の活性化をもたらした。

同じくソフト事業で、松江城北側の観光地区内にある店舗や観光スポットが記載されたエリアマップの作成、配布を行った。これによりエリアへのイメージアップに繋がるとともに誘客および滞在時間の長期化を促した。

松江城国宝指定の効果が落ち着いたことで観光入込客数は前年から減少したものの、FDA 仙台便と静岡便が新規就航することで、東北・東海地方を新たなマーケットを開拓するためにプロモーションを強化していく。また、インバウンドは入込客数が26.8%増、宿泊客数は16.6%増で過去最高を更新しており、中心市街地で個人観光客を見かける機会が増えている。

一方で、観光地などの一部地域を除き、依然として中心市街地での回遊性は高いとは言えないため、中心市街地に人の流れをつくっていくことが引き続きの課題である。平成30年3月にJR松江駅構内にある商業施設「シャミネ」がリニューアルオープンしたことや、松江しんじ湖温泉駅周辺に複合商業施設「COCO MATSUE」がオープンしたことで、それぞれの地点において通行量が増加しており、人の流れの創出につながっていると感じられる。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

| （中心市街地区域） | 平成24年度（平成24年9月30日時点） （計画期間開始前年度） | 平成29年度（平成29年9月30日時点） （フォローアップ年度） |
|-----------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 人口 | 15,276人 | 14,961人 |
| 人口増減数 | -37人 | 29人 |
| 社会増減数 | 65人 | 143人 |
| 転入者数 | 668人 | 725人 |

2. 平成 29 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

2 期計画の 5 年目となる平成 29 年度は、前述の概況にも記載されたように COCO MATSUE のオープンや、地域活性化に取り組む組織が複数立ち上がり、ソフト事業補助金も活用しながら事業展開を行う動きが出てきた。

今後、不昧公 200 年祭、JR 西日本デスティネーションキャンペーン、ホーランエンヤ等大型観光プロジェクトが展開されることから、さらなる滞在時間の延長、回遊性向上のためのハード、ソフト両面での支援を官民挙げて取り組む必要がある。

「観光交流」

まちあるき参加者については、前年から 25%の減少となっているものの目標の 8,000 人を大きく上回る 14,000 人弱となっており高水準を維持している。

不昧公 200 年祭にあたり、定時ガイドコースのリニューアル・特別コースの設定も予定される他、「お茶」をテーマにした商店街や個店においての取り組みもみられ、まちあるき参加者の一層の増加が期待できる。

中心市街地における宿泊者数は、平成 28 年と比較して 4 万人余り増加している。新たな宿泊施設の開業やコンベンション参加者の宿泊者数の増加、さらに外国人宿泊者数が過去最高を記録するなどインバウンドのプロモーション成果もあがっており、滞在時間の延長に繋げる松江水燈路では松江城本丸解放・期間延長も行って前年比 36%増の人出を数えている。

前述の大型イベントに加え、FDA 静岡便・仙台便の就航、JR 西日本の観光列車「あめつち」の運行も予定されるなど、交通インフラの進展という面からも宿泊者数増加が期待され、目標達成に向けて順調に進捗しているものとする。

「近隣集客拠点」

商店街の空き店舗数は、前年に比べて大幅に減少している。店主の高齢化、後継者問題は、引き続き大きな課題であり、新たな空き店舗増加に繋がりにくい状況である。効果をあげているチャレンジショップ支援事業に加えて、創業支援セミナーや事業承継事業、まちゼミ事業等を有機的に結び付けるとともに、空き店舗情報の収集と発信強化を図るなどして商店街への新規出店に繋げていく必要がある。

「通行量」については、目標に対して 90%程度で横ばい状態が続いている。

昨年 5 月には複合施設「COCO MATSUE」、今年 3 月にはシャミネがリニューアルオープンし、塩見縄手エリアでは観光施設のリニューアルに合わせ、商店主らによるエリア活性化の組織が立ち上がった。中国横断自動車道尾道松江線の効果も堅調を維持している中、交通インフラの一層の充実もはかれることから、まちなかへより多くの観光客を誘導し、回遊する仕組みづくりを引き続き産官学で協力して推進していく必要がある。

「まちなか居住」は、中心市街地内外の住宅供給状況に大きく左右される傾向にあるが、平成 29 年度には、中心市街地内で 143 人の社会増となっている。直近 5 年間の平均 22 人増を大きく上回る結果となっており、民間資本による新規のマンション竣工が好影響をもたらしていると考えられる。

引き続き計画されている事業のスムーズな推進に向けて、官民協力して推進を図る必要がある。

予定に達していない目標指標もあるが、空店舗数の減少や新規の取組等まちなかの賑わいや動きは活発になっており、基本計画はおおむね順調に進捗しているものと考えている。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

| 目標 | 目標指標 | 基準値 | 目標値 | 最新値 | 前回の見通し | 今回の見通し |
|--------|------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|--------|--------|
| 観光・交流 | 中心市街地内の宿泊客数 | 1,278 千人 (H23) | 1,406 千人 (H30) | 1,304 千人 (H29) | ③ | ③ |
| | 中心市街地の定時ガイド コース参加者数 | 6,840 人 (H24 推計値) | 8,000 人 (H30) | 13,723 人 (H29) | ① | ① |
| 近隣集客拠点 | 通行量[平日・休日の合計 (2日間)] | 20,101 人 (H23) | 23,000 人 (H30) | 20,709 人 (H29) | ③ | ③ |
| | 商店街空店舗数 | 97 軒 (H24) | 82 軒 (H30) | 52 軒 (H29) | ① | ① |
| まちなか居住 | 中心市街地内の社会増減 | 38 人 (H18～H23 の年平均) | 66 人 (H25～H30 の年平均) | 22 人 (H25～H29 の年平均) | ③ | ③ |

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「中心市街地内の宿泊客数」については、前年比 41 千人増の 1,304 千人となった。特にコンベンション開催件数増加もあり松江駅前の宿泊客数が増加した。今後は、冬季や梅雨期の閑散期対策に取り組み、宿泊につながる首都圏や中京圏や外国人観光客に向けて、メディア対策と旅行会社へのアプローチを強化することで宿泊客を増やしていき、目標達成に向けて最大限努力していく。

「中心市街地の定時ガイドコース参加者数」については、まちあるき利用者数は昨年より減少したものの依然として高い水準を維持している。今後も観光協会と連携して、「不昧公 200 年祭」を見据えた『市民に根付く松江の「茶の湯文化」にふれる』といったテーマのコースを実施し、観光客のニーズや話題に応じたコースを提供することで、目標達成は可能であると考えている。

「通行量 [平日・休日の合計]」については、ほぼ横ばいの状況が続いているが、千鳥町ビル再開発事業の複合商業施設建設工事が平成 28 年度で完了し、平成 29 年 5 月に複合商業施設「COCO MATSUE」がオープンした。新しく設置される堀川遊覧船の乗船場や外国人観光客の増加により通

行量の増加が見込まれるため、目標達成には厳しい状況が続いているが、最大限努力していく。

「商店街空店舗数」については、前年比 29 軒減の 52 軒となっている。チャレンジショップ支援事業等の既存の支援策を継続しつつ、商店街や商工会議所と連携して空店舗対策に取り組んでいくことによって目標達成は可能であると考えている。

「中心市街地内の社会増減」については、平成 25 年度が 65 人増、平成 26 年度が 131 人減、平成 27 年度が 39 人減、平成 28 年度が 73 人増、平成 29 年度が 143 人増、平成 25～29 年度の平均は 22 人増となった。平成 29 年度の 143 人増の内訳は、転入転出による 107 人増と、市内転居による 36 人増であった。民間開発によるマンション竣工等が要因となって 2 年連続で社会増をもたらしており、中心市街地内で新たなマンションやサービス付き高齢者向け住宅等が供給されることから目標達成可能と見込んだ。

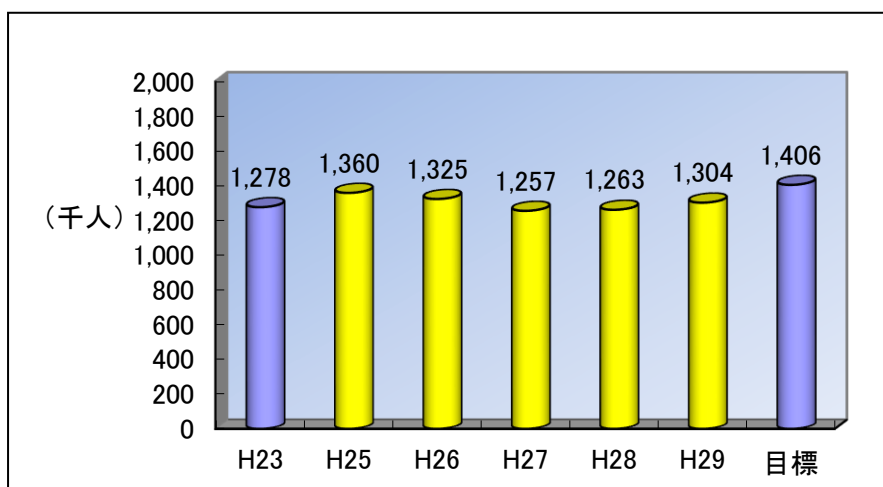
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回のフォローアップの実施から変更はない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地内の宿泊客数」※目標設定の考え方基本計画 P59～P81 参照

●調査結果の推移



| 年 | (千人) |
|-----|-----------------|
| H23 | 1,278 (基準年値) |
| H25 | 1,360 |
| H26 | 1,325 |
| H27 | 1,257 |
| H28 | 1,263 |
| H29 | 1,304 |
| H30 | 1,406 (目標値) |

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年 1～12 月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内のホテル、旅館、公共の宿泊施設の年間宿泊客数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 尾道松江線の開通（国土交通省）

| | |
|------------|--|
| 事業完了時期 | 【済】平成26年度 |
| 事業概要 | 広島県尾道市と松江市を結ぶ高速道路の建設 |
| 事業効果及び進捗状況 | <p>平成27年3月に中国やまなみ街道（尾道松江線）が全線開通し、主に山陽方面や四国方面からの集客に寄与している。平成29年の本市観光入込客数は982万人（前年比44万人減）と1,000万人には届かなかったものの依然として高い水準を維持している。</p> <p>【目標数値設定時に見込んだ事業効果】 H23 宿泊客数 1,278 千人×中四国・九州からの割合 30%×尾道松江線開通効果 8%=30 千人/年</p> <p>【直近の効果数値】 H29 宿泊客数 1,304 千人×中四国・九州からの割合 30%×尾道松江線開通効果 8%=31 千人/年</p> |

②. 松江水燈路（松江市、松江ライトアップキャラバン実行委員会）

| | |
|------------|--|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成18年度～ |
| 事業概要 | 滞在時間の増加と、夜の観光振興を図るため、毎年秋に開催する堀川周辺での明かりイベント |
| 事業効果及び進捗状況 | <p>滞在型観光推進のため、9月23日から10月31日までの間、松江城周辺をライトアップした。夜の観光イベントとして、堀川遊覧船夜間運行や松江城本丸開放等も実施し、平成29年の観光入込客数は122,240人のほり、中心市街地のにぎわい創出に寄与した。</p> <p>【目標数値設定時に見込んだ事業効果】 H23 水燈路入込客数 86,220 人÷休日開催日数 13 日×休日に対する平日の割合 0.63×平日開催日数 17 日=71,032 人 71,032 人×宿泊率 23.2%=16 千人/年の増加を見込む。</p> <p>【直近の効果数値】 H29 水燈路入込客数 122,240 人÷休日開催日数 13 日×休日に対する平日の割合 0.63×平日開催日数 17 日=100,707 人 100,707 人×宿泊率 23.2%=23 千人/年増加した。</p> |

③. 堀川遊覧船乗船棧橋の設置【平成30年度追加】

| | |
|------------|--|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成30年度～ |
| 事業概要 | 堀川遊覧船の新たな乗船場設置 |
| 事業効果及び進捗状況 | <p>松江市観光の大きな柱である堀川遊覧船について、平成30年9月～11月に乗船場を新たに設置することで滞在型観光を推進し、宿泊客の増加につなげる。</p> <p>事業が実施された場合、6千人/年の宿泊客増加を見込んでいる。</p> |

④. 民間宿泊施設（民間事業者）

| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成24年度～ |
| 事業概要 | 民間宿泊施設の開業 |
| 事業効果及び進捗状況 | <p>JR 松江駅周辺において、平成24年に1軒、平成28年に1軒、平成29年に1軒ホテルが開業し中心市街地を起点とした旅行プランが立てやすくなり、旅行客の多様なニーズにより対応できるようになった。平成29年の松江駅前の宿泊客数は前年比41,835人増の957,876人と宿泊客数の増加に貢献した。</p> <p>【目標数値設定時に見込んだ事業効果】 宿泊施設収容人数 170人×365日×稼働率 74%×2軒=92千人/年 【直近の効果数値】 宿泊施設収容人数 170人×365日×稼働率 74%×2軒=92千人/年 新規民間宿泊施設収容人数 170人×150日（集計対象の5か月）×稼働率 74%=19千人/年 合わせて111千人/年の増加に貢献している。</p> |

⑤. 中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構事業【平成30年度追加】

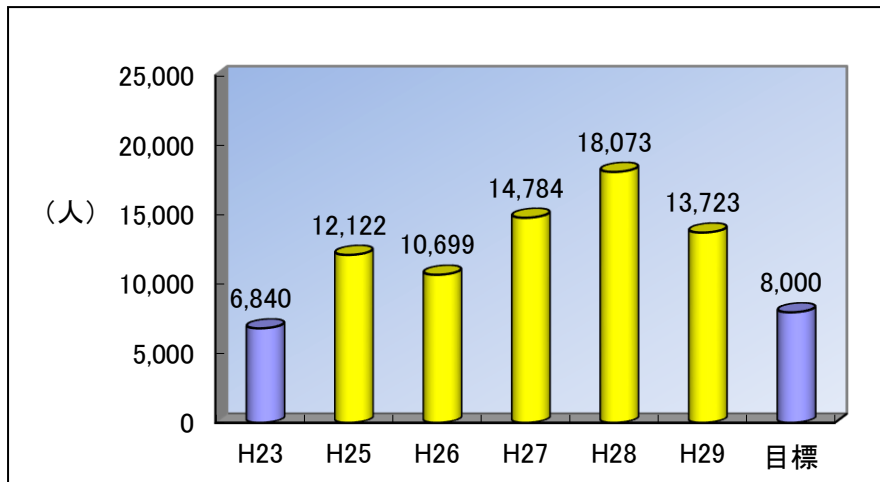
| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成29年度～ |
| 事業概要 | 圏域 DMO による外国人誘客対策事業 |
| 事業効果及び進捗状況 | <p>圏域の魅力・観光資源を海外へ情報発信することや、受入環境を整備することで外国人観光客のさらなる増加を目指す。平成29年における外国人観光入込客数は前年比24,788人増の117,168人、外国人観光宿泊客数は前年比7,819人増の54,962人と大きく増加した。</p> <p>事業実施により4千人/年の宿泊客数増加を見込んでいる。</p> |

●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地内の宿泊客数」については、平成28年の1,263千人に対し、41千人増の1,304千人となった。コンベンション開催件数の増加によりビジネスホテルの宿泊客数が増加している。平成30年は4月からの「不昧公200年祭」をメインコンテンツに据え、圏域 DMO や JTB、JR の観光キャンペーンと連携して、国内外に情報発信していく。また、堀川遊覧船の新しい乗船場設置によって6千人、民間宿泊施設の新規開業で46千人、圏域 DMO による効果で4千人の宿泊客増を見込んでおり、事業が着実に実施されることで目標の達成を目指したい。

「中心市街地の定時ガイドコース参加者数」※目標設定の考え方基本計画 P59～P81 参照

●調査結果の推移



| 年 | (人) |
|-----|-----------------|
| H23 | 6,840 (基準年値) |
| H25 | 12,122 |
| H26 | 10,699 |
| H27 | 14,784 |
| H28 | 18,073 |
| H29 | 13,723 |
| H30 | 8,000 (目標値) |

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年1～12月

※調査主体：松江市

※調査対象：松江観光協会が実施する中心市街地内のガイド付きまちあるきコース年間参加者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. まち歩き観光推進事業（（一社）松江観光協会）

| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成24年度～ |
| 事業概要 | 当日受付可能なまちあるきコースを開設するもの。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 松江城と周辺城下町を巡るコースを中心に松江観光協会がまちあるきを実施している。松江観光協会ではJR松江駅から出発するまちあるきコースの「松江満足物語」も追加している。本事業によって中心市街地でのまちあるきが定着化してきており、にぎわい創出に寄与している。 【目標数値設定時に見込んだ事業効果】 定時コース参加者数：6,608人、特別コース参加者数：866人 【直近の効果数値】 定時コース参加者数：13,723人、特別コース参加者数：489人 |

②. わが町自慢発掘プロジェクト（松江市）

| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成25年度 |
| 事業概要 | 市民との協働により地域のお宝を発掘し、公民館毎の「まち歩きマップ」を作成するもの。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 公民館区毎に地域住民が主体となり、地域の歴史や文化を伝えるお宝（資源）を発掘し、それを地図上に表現してまち歩きルートを設定するマップづくり「わがまち自慢発掘プロジェクト」を平成22年度～平成25年度の期間で実施した。まち歩きマップは、公民館、小中学校、観光案内所等に配布し、まち歩きをする際に活用されている。今後まち歩きマップをさらに活用する |

ことで、新たなまち歩きコースが追加されることが期待される。

③. 興雲閣解体修理・活用事業（松江市）

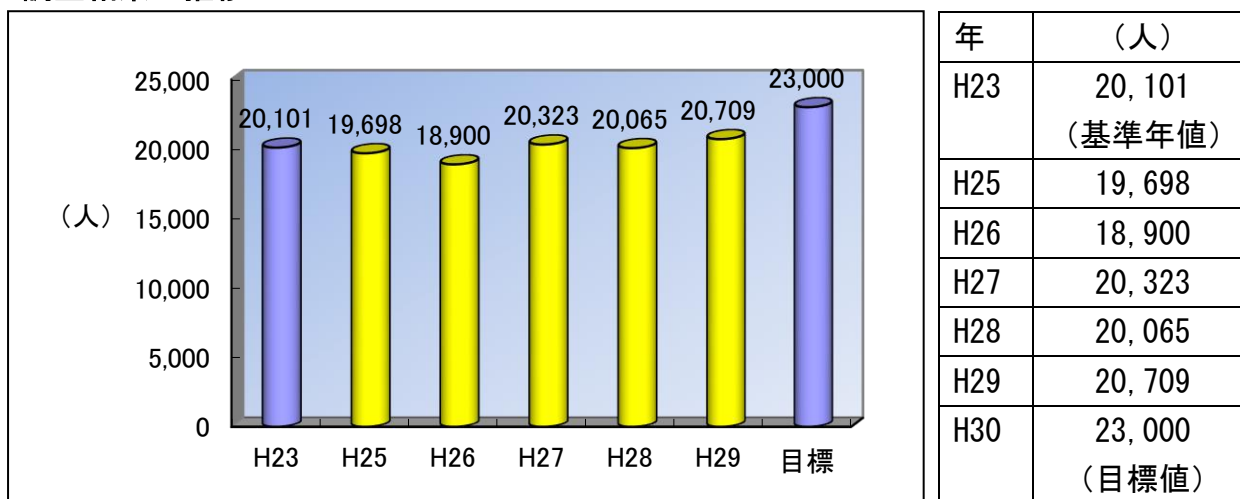
| | |
|------------|--|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成 24 年度～ |
| 事業概要 | 明治期に迎賓館として建築された興雲閣を改修するもの。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成 25 年度から実施していた保存修理工事が完了し、平成 27 年 10 月にリニューアルオープンした。平成 29 年の観光入込客数は 216,129 人で、観光・交流の拠点として、今後もまちあるきの活性化に寄与することが期待される。 【目標数値設定時に見込んだ事業効果】 興雲閣入込客数 60,000 人 × まちあるき参加率 1% = 600 人/年 【直近の効果数値】 興雲閣入込客数 216,129 人 × まちあるき参加率 1% = 2,161 人/年 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地の定時ガイドコース参加者数」については、松江観光協会、ボランティアガイドの会の取組より、まちあるきが定着化してきており、平成 29 年は前年より減少したものの基準値を大きく上回っている。今後は、「不昧公 200 年祭」を見据えた『市民に根付く松江の「茶の湯文化」にふれる』といったテーマのコースを実施し、観光客のニーズや話題に応じたコースを提供することで、引き続き目標値以上の参加者数を目指す。

「通行量 [平日・休日の合計 (2 日間)]」※目標設定の考え方基本計画 P59～P81 参照

●調査結果の推移



※調査方法：歩行者・自転車通行者数を毎年 10～11 月の平日・休日に 8 地点において 11 時～18 時で計測

※調査月：10～11 月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内の 8 地点（みしまや中央店、末次本町広場、中村茶舗前、島根県不動産会館前、ポートピアビル前、駅駐輪場横高架下、元丸三西側高架下、松江しんじ湖温泉南側）における歩行者及び自転車の通行量

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 民間開発による住宅の整備（民間事業者）

| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成 25 年度 |
| 事業概要 | 民間開発による住宅の整備 |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成 25 年 6 月に母衣町にマンション（アルファステイツ母衣町Ⅱ）の供給が始まったことにより、新たに住人となった方が 65 戸（新規供給戸数）×2.4 人（殿町地区マンション平均世帯員数）＝156 人、通行量については 156 人×2＝312 人増加した。 また、平成 29 年 2 月にマンション（アルファステイツ南田町）が供給開始となり、新たに 61 戸（新規供給戸数）×2.1 人（南田町の平均世帯員数）＝128 人が住人となった。通行量の増加と居住人口の増加を同数とすると、通行量が 128 人×2＝256 人増加した。 |

②. 千鳥町ビル再開発事業（千鳥町ビル周辺地区市街地再開発組合）

| | |
|------------|--|
| 事業完了時期 | 【済】平成 28 年度 |
| 事業概要 | 高齢者住宅等を整備する。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成 27 年 9 月に高齢者住宅（介護付き有料老人ホーム椿貴）が開設され、千鳥町の平成 29 年社会増減で 2 人増加、転居増減で 6 人増加となり、開設以降は 3 年連続増加する等、まちなか居住や周辺地区の回遊性向上に寄与した。通行量の増加と居住人口の増加を同数とすると、通行量が 8 人×2＝16 人増加した。 平成 29 年 5 月に複合商業施設「COCO MATSUE」がオープンし、賑わいの再生とコミュニティ創出を図ることが期待される。 【目標数値設定時に見込んだ事業効果】 住宅の供給により 26 人、高齢者施設の供給により 100 人、合わせて 126 人の増加 |

③. 南殿町地区複合施設整備事業（地権者等）

| | |
|------------|--|
| 事業完了時期 | 【未】平成 26 年度～ |
| 事業概要 | 南殿町地区の空店舗や民家、店舗敷地等において、住宅と店舗等複合施設を整備する。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成 29 年度は地権者や商店街が集まり、事業化に向けた構想の段階であり、事業効果は発現していない。集客拠点施設を結ぶ回遊導線を整備することによる早期の事業効果の発現を目指しているが、当初想定していた整備時期に大幅な遅れが生じており、現在の計画期間内での事業完了は現実的に難しいと考えている。 事業が実施された場合、住宅が供給されることにより 72 人の増加、また店舗等複合施設整備により 199 人の増加、合わせて 271 人の増加を見込んでいる。 |

④. 堀川遊覧船乗船棧橋の設置【平成 30 年度追加】

【再掲】 P5 参照

⑤. 中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構事業【平成 30 年度追加】

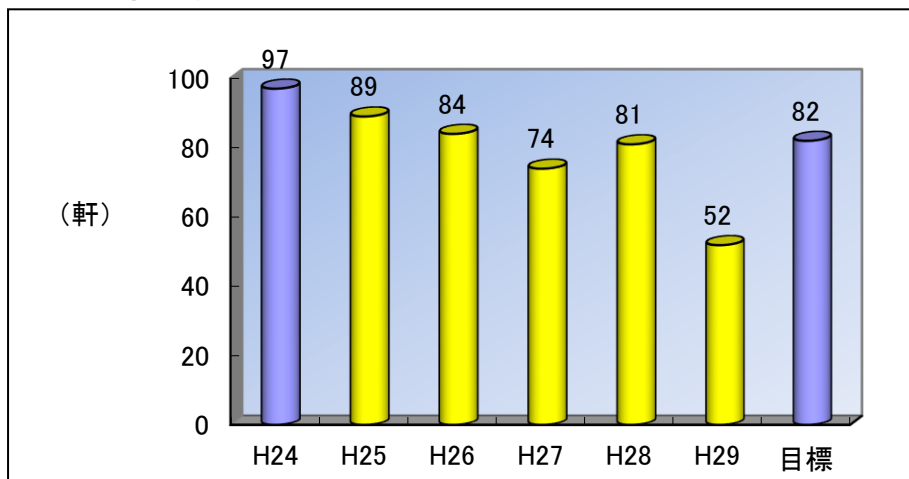
【再掲】 P5 参照

●目標達成の見通し及び今後の対策

「通行量 [平日・休日の合計]」については、調査地点によりばらつきはあるものの基準年値からほぼ横ばいの状況が続いている。平成 29 年 5 月に複合商業施設「COCO MATSUE」がオープンし、平成 30 年 3 月には松江駅構内の商業施設「シャミネ」がリニューアルオープンしたことによって通行量の増加が期待される。また、堀川遊覧船の新しい乗船場の設置によって1日あたり 63 人、外国人観光客の増加によって1日あたり 1, 599 人の通行量増加が見込まれる。引き続き中心市街地の集客拠点を確保し、目標達成に向けて最大限努力していく。

「商店街空店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P59～P81 参照

●調査結果の推移



| 年 | (軒) |
|-----|--------------|
| H24 | 97 (基準年値) |
| H25 | 89 |
| H26 | 84 |
| H27 | 74 |
| H28 | 81 |
| H29 | 52 |
| H30 | 82 (目標値) |

※調査方法：空店舗調査（商工会議所が実施する商店街への聞き取り調査）

※調査月：H25 年度は 9 月、H26 年度以降は 3 月

※調査主体：松江商工会議所

※調査対象：中心市街地の 11 商店街

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 商店街チャレンジショップ支援事業（島根県、松江市）

| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成 9 年度～ |
| 事業概要 | 空店舗に出店しようとする事業者に対し家賃等を補助する。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 商店街空店舗への新規出店により空店舗の増加に歯止めをかけた。 (実績) 平成 29 年度：6 店舗出店（中心市街地エリア内） |

②. 伊勢宮界限元気プロジェクト（新大橋商店街、(株)伊勢宮界限元気プロジェクト）

| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成 23 年度～ |
| 事業概要 | 空店舗への出店誘致や地域資源を生かしたソフト事業を実施する。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 長屋空店舗群のテナントミックス事業により、平成 25 年度から 3 軒が継続して出店している。また、まちあるきと中心市街地の賑わい創出のために実施しているイベント「松江バル」に協力することで、商店街に賑わいを創出した。 【目標数値設定時に見込んだ事業効果】 空店舗解消数 6 軒 |

③. 街なか知っ得ゼミナール事業（中心市街地商店街）

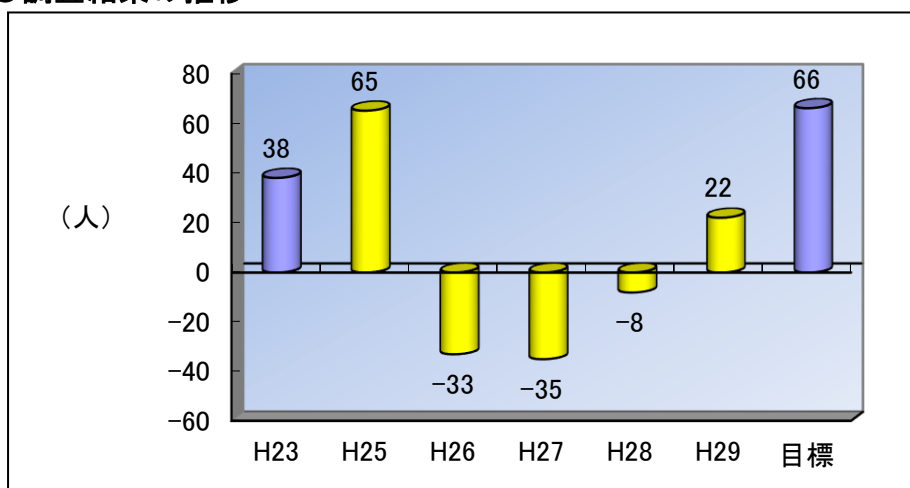
| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成 24 年度～ |
| 事業概要 | 商店街の専門知識や技術を学ぶゼミナールを実施する。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成 29 年度は中心市街地内の店舗を含め、11 月 1 日～11 月 29 日に 36 店舗で 39 講座を実施し、317 人が参加した。本事業によって、個店の魅力向上を図り、各参加店舗の新規顧客獲得を促進することで、空店舗の増加に歯止めをかけた。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

「商店街空店舗数」については、すべての商店街で空店舗数が減少し、前年比 29 軒減の 52 軒であった。今後も官民が連携して空店舗解消の関係事業を着実に実施することで、目標を達成していきたい。

「中心市街地内の社会増減」※目標設定の考え方基本計画 P59～P81 参照

●調査結果の推移



| 年 | (人) |
|-----|--------------------------------|
| H23 | 38 (基準年値) (H19～H23 の年平均) |
| H25 | 65 |
| H26 | -33 |
| H27 | -35 |
| H28 | -8 |
| H29 | 22 |
| H30 | 66 (目標値) (H25～H30 の年平均) |

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：毎年 9 月

※調査主体：松江市

※調査対象：転出入（中心市街地⇄市外の異動）＋転居（中心市街地⇄郊外の異動）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 民間開発による住宅の整備（民間事業者）

【再掲】P8 参照

②. 千鳥町ビル再開発事業（千鳥町ビル周辺地区市街地再開発組合）

【再掲】P8 参照

③. 南殿町地区複合施設整備事業（地権者等）

【再掲】P8 参照

④. 中古木造住宅取得等支援事業補助金（松江市）

| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成 21 年度～ |
| 事業概要 | 空き家の流通、活用促進のため、中古木造住宅の取得及び改修・建替えに補助を行う。中心市街地においては、非木造住宅も可。また、補助率に上乘せを行っている。 |
| 事業効果及び進捗状況 | <p>【目標数値設定時に見込んだ事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 取得支援事業 2 世帯×6 年×平均世帯人員 2.2 人=26 人 <p>【平成 25 年度～平成 29 年度累計（累計の効果数値）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 取得支援事業 309 件（内 中心市街地 37 件） 改修支援事業 52 件（内 中心市街地 9 件） 建て替え除去支援事業 32 件（内 中心市街地 8 件） 計 約 82 人 |

⑤. 市営住宅の供給（松江市）

| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成 25 年度～ |
| 事業概要 | 借上方式による市営住宅の供給を行い人口の定着及び活性化を図る。民間賃貸住宅の借上げ（既存又は新設）による市営住宅を供給するもの。 |
| 事業効果及び進捗状況 | <p>中心市街地においては現在、借上げ市営住宅として 40 戸（ウイステリア天神（20 戸）、寺町プラザ（20 戸））を供給しており、引き続き人口の定着を図っていく。</p> <p>【目標数値設定時に見込んだ事業効果】</p> <p>借上げ戸数 20 戸×天神町の平均世帯員数 2.2 人×市外・郊外からの移住割合 80%=32 人</p> <p>【直近の効果数値】</p> <p>借上げ戸数 40 戸×天神町・寺町の平均世帯員数 1.9 人×市外・郊外からの移住割合 80%=61 人</p> |

⑥. 中海・宍道湖・大山圏域 産学・医工連携事業【平成 30 年度追加】

| | |
|------------|--|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成 29 年度～ |
| 事業概要 | 圏域の自治体、事業者、病院、国立大学医学部などで行われている産学・医工連携の取り組みを推進する。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 病院や福祉施設、企業などのニーズと技術をマッチングさせ、医療機器開発や販路開拓を支援することによって、医療・福祉の充実、産業・雇用の創出を図る。平成 29 年度においては実用化件数が 1 件、相談件数が 78 件あり、マッチングの件数は 0 件だった。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地内の社会増減」については、平成 29 年の単年で 143 人増、平成 25 年から 29 年までの年平均で 22 人増になっており、中心市街地内で民間開発によるマンション竣工があったこと等が居住人口増加の要因と考えられる。

来年度は新たなマンション（松江駅南マンション：28 戸）竣工やサービス付き高齢者向け住宅（塩見縄手Ⅱ：60 戸）の供給開始が予定されており、社会増をもたらすことによって目標達成は可能であると見込む。また上記の事業に加えて若年者まちなか住宅家賃助成事業補助金によって 1 年あたり 11 人の社会増を見込んでいる。これらの事業を円滑かつ効果的に実施し、UIJ ターン者対策等により転入転出による減少を最小限に抑え、まちなか居住につながる市内転居の増加を促していくことで目標を達成する。